Principal Correspondence

働く意味

昨年延期になった中学１年のホームカミングを7月に行いました（卒業生は中学２年になりました）。そのお迎えに，３名の 20 歳を超えた兄姉の卒業生が来てくれました。
３名のうち一人は警察官,一人は歯科医と道が決まっていましたが，一人は「まだ決まっていません。」と自分探しの真最中でした。私は「30 歳ぐらい迄はいいんだよ！」と言いました。

突然ですが「人は何で働くか？」との問いには，多くの人が様々な答えをもっていることと思います。職業は大事な自分探しの目標です。
簡単に言うと,お金をもらって働く人を「プロフェッショナル」と言い,報酬をもらわないで働くことを「ボランティア」と言います。これはどちらも尊い・・・。
職業つまり,プロフェッショナルの第一の目的は「報酬」です。人は食わなければ生きていけない。生存は第一。お金は少々でも多いに越したことは無い。
だからといって人は何でも報酬のためだけに働くか・・・？
下記は 100 年前の英国ロンドンでの南極探検隊員募集の広告。

南極探検隊員募集

求む隊員。至難の旅。わずかな報酬。極寒。暗黒の日々。絶えざる危険。
生還の保障はない。成功の暁には名誉と賞賛を得る。

アーネスト・シャクルトン卿によるこの広告で 5000 人の若者が応募し,優秀な隊員をリクルートでき,探検隊は一人の犠牲もなく越冬を終了したと言います。

働く意味には「社会への貢献」や「自己の成長」が大事なようです。むしろその「意味」が強ければ強いほど,人は生きがいを感じ,幸福感を得るらしい。「自分探し」とは,自分が好きで力が発揮できる職業（ボランティアも含めましょう）を探すこと。
なぜなら人は人生で一番仕事に費やす時間が長いからです。その充実なくして幸せな人生はありません。

Principal Correspondence

リーダーシップなき集団は烏合の衆

学校でも職場でもPTAでも，町内会でも社会のあらゆるところで，きちんとしたリーダーがいない集団を烏合の衆といいます（辞書によると鳥の群れのように統一も規律もなく寄り集まった群衆・・とあります）。烏合の衆になると秩序なく共通の目標が失われ，ルールなくお互いが自己中心に争い，不幸な集団となります。極端な例として戦後の混乱などを想像してみてください。
兄弟姉妹の少ない現代，子供たちは家庭の中で兄姉の振る舞いを見たりや，弟妹をかわいがる様な機会は少なくなりました（兄弟喧嘩も）。
学校でも縦割りの異年齢で子どもたちが群れ遊ぶ姿は見られなくなりました。普通休み時間は同年齢の子どもたちとしか遊びません。
脳科学者の澤口俊之先生は，この異年齢の群れ遊びこそコミュニケーション能力を高め，社会性を育て，感情的知性（他人の感情を理解し，自分の感情をコントロールする力）を育てる最も大事な機会と述べておられます。この経験は小学校のうちに獲得するべきと思います。
現代社会こそ「ボス（世襲の親分）」でなく「リーダー（指導者）」が，どんな集団にも求められています。そうしたチャンスとして学童保育の現場はとても大事な教育の場です。

学童の現場でリーダーには

① チームの意思を取りまとめる力
② チームの目標を掲げ，全体に共有する力
③ 秩序を保つための規範を守らせること
（例えばルールのないスポーツはありません。）
④ フェアネスの精神（誰にも公平・公正さで接する）
⑤ メンバー（特に年少の者）を優先する利他的な心

などが求められます。

一昨年，学童保育でディズニーランドに行った時の事。縦割りのチームのリーダーの上級生は，先生が舌を巻くほど，立派に下級生をリードし，意見をまとめ，助けあい，アトラクションを回っていました。その姿を見て感動すら覚えたものです。きっと将来に宝となる役立つ経験となったことでしょう。

このリーダーの子たちもまた数年前はフォロワーとして上級生の立ち振る舞いを間近に見て育ってきたのです。これは座学では学べません。
秋にはまた学童教室を離れた体験学習活動，チーム対抗のイベント　　や 行事を通して，学びの機会を作っていきたいと思います。